

たこやき

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

あるとき、おじいさんが、おばあさんに、

「たこやきを食べたいから、買ってきて」とたのみました。

おばあさんは、たこやきを買ってきて、おじいさんにわたしました。おじいさんが食べようと思つてふたをとると、たこやきがひとつ足りません。おじいさんは怒つて、おばあさんに、

「おまえ、なんでさきに食べたんだ」といいました。おばあさんは、

「わたし知りませんよ。よく見てくださいよ」といいました。おじいさんがよく見てみたら、たこやきがひとつ、ふたにくつついていました。

それから何年もたつてからのことです。おじいさんは年をとつて死んでしまいました。

そのお葬式の日。

「これがさいごのおわかれです」と、*棺桶のふたをとりました。すると、おじいさんがいません。よく見てみたら、おじいさん、棺桶のふたにくつついていましたとさ。おしまい

* 棺桶 なくなつた人を寝かせるは

出典

『語りの森昔話集1 おんちよろちよろ』村上郁再話